

財務諸表のなぜ？
にお答えします！

令和4年度決算版

荒川区の財務諸表

Q & A

& “ワンポイント”用語解説

はじめに

荒川区は、目指すべき将来像「幸福実感都市あらかわ」を掲げ、区民の皆さんが、ずっとこの街で幸せを実感していただけるよう様々な事業を計画的に行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策や災害対策等のような不測の事態への対応も必要となります。

こうした事業を行っていくためには、限られた財源を重点的かつ効果的に投入するとともに、費用対効果を見極め、徹底した事業の見直しによる行財政運営のさらなる効率化・適正化が必要です。

このため、区では、これまで以上に健全で持続可能な財政運営が行えるよう、平成28年度から本格的な複式簿記を導入し、新公会計制度による財務諸表を作成しています。

令和4年度は、各分野における新型コロナウイルス感染症対策を継続するとともに、電力・ガス・食料品等の価格高騰への対策として、子育て世帯などへの給付金の支給、保育・介護・障害福祉サービス事業者や公衆浴場などの区内事業者への支援など、区として区民の皆様の暮らしに必要な取組を最大限実施してきたところです。また、荒川遊園のリニューアルオープンや東京女子医科大学東医療センターの移転に伴う新病院の開設支援など、区の魅力の向上や区民の皆様の健康を守るための政策に加え、子育てや教育環境の整備・まちづくりなど、幅広い分野の課題解決にも確実に取り組んでまいりました。

本書は、令和4年度のこのような事業取組後の区の資産状況等をQ&A形式でまとめています。包括年次財務報告書を読むにあたって、『あら坊・あらみいと一緒にみる荒川区の財務諸表』とあわせて、ぜひこのパンフレットを参考にしてください。

目次

Q 財務諸表は何のために作るの？ **1頁**

Q 区の財務状況はどのような状況ですか？ . . . **2頁**

Q 財務諸表はどのように分析し、どのように役立つの？ **7頁**

Q 緊急性の高い新たな行政需要に対応 **9頁**

Q 財務公表 **11頁**

Q 財務諸表を見て財務状況が一目でわかるポイントってあるの？ **13頁**

※ 各問には、関連する包括年次財務報告書（財務報告書）の参照頁を記載しています。

用語解説

のマークは『“ワンポイント”用語解説』の対象語句になります。

本書の計数については、各項目とも表示単位未満を四捨五入しているため、表中の増減額及び合計額等が一致しない場合があります。



財務諸表は何のために作るの？

財務報告書
2・3頁参照

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を継続すると共に、物価高騰対策など、区民の皆様の暮らしに必要な幅広い分野の課題解決に確実に取り組みました。その結果、一般会計の決算額は歳入1,147億円、歳出1,095億円で、差引52億円の黒字となり、これを翌年度に繰越しました。

このように、今後も区政の様々な課題解決や新たな行政需要に確実に応えていくためには、私たちが健康診断を受けるのと同じで、定期的に財務状況をチェックし、現在の区の資産や負債等をきちんと把握した上で、必要な財源を確保していくことが大切です。

財務諸表は、区の財務状況をチェックしたり、計画的にお金を使っていくことなどのために活用されています。



POINT!

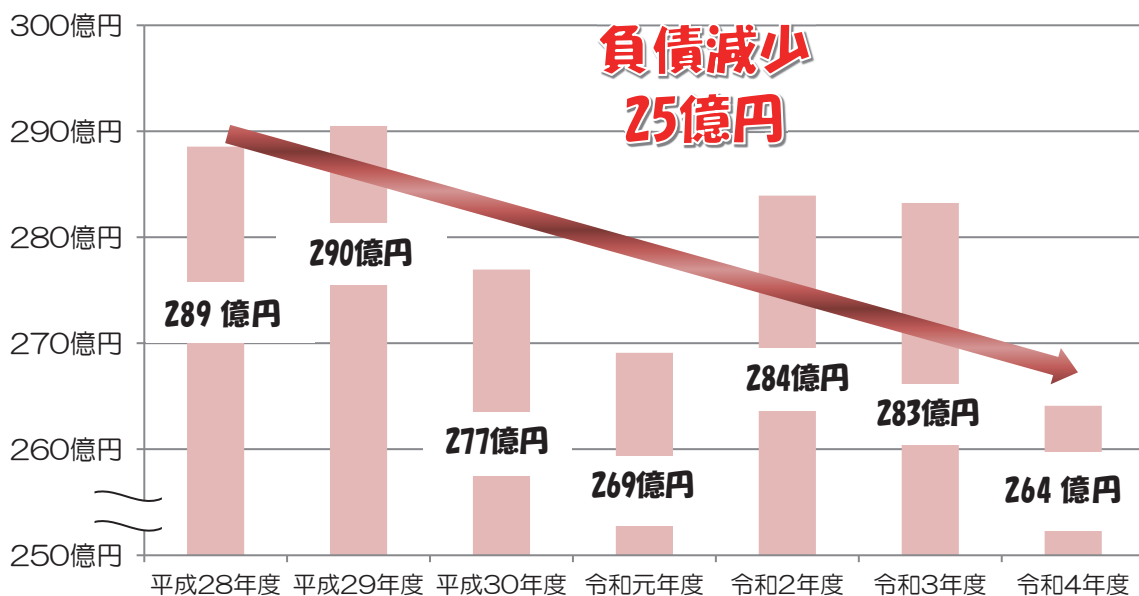
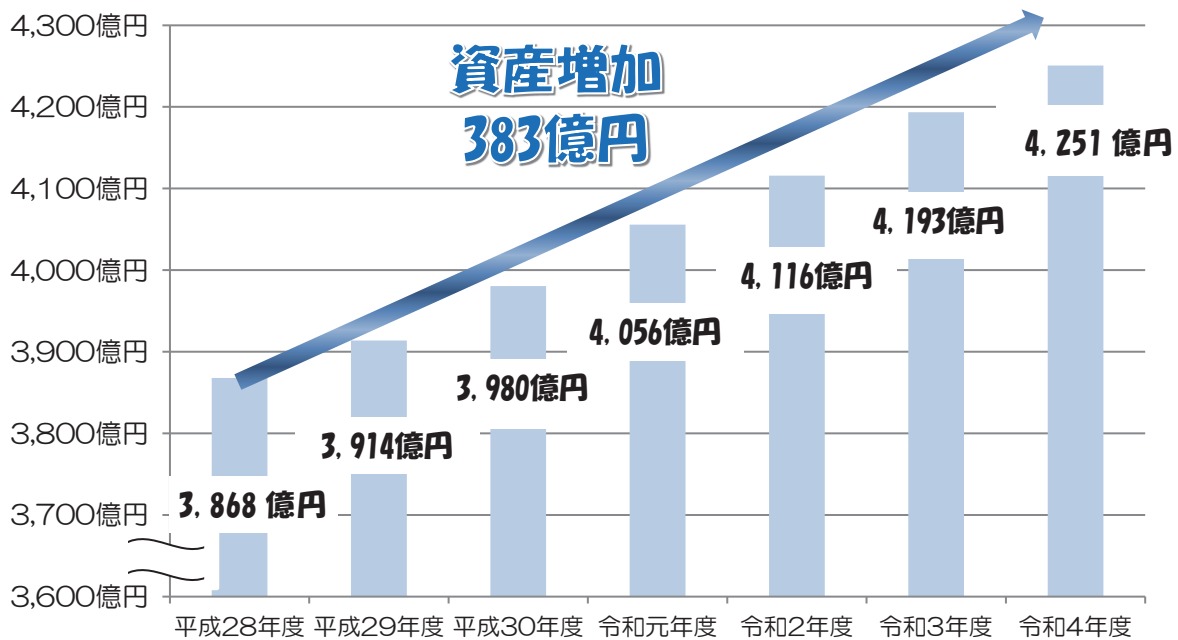
「財務諸表で財務状況を定期的にチェック」



区の財務状況はどのような状況ですか？

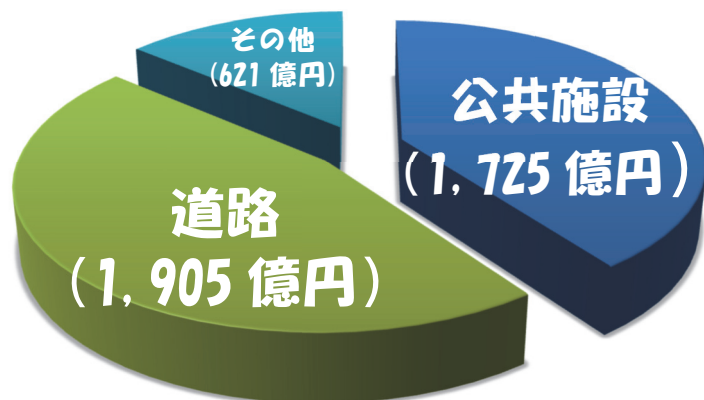
財務報告書
8・9頁参照
用語解説

平成28年度以降、令和4年度までに区の資産は383億円増え4,251億円（8.4%増）、負債は25億円減り264億円（8.6%減）となっています。



では、令和4年度末の資産と負債の内訳を見てみましょう。

まず、資産では、道路が1,905億円、学校やふれあい館、公園などの公共施設が1,725億円で、合計すると3,630億円となり約9割を占めています。しかし、**減価償却**により、資産の価値は年々減少していきます。



“ワンポイント”用語解説

減価償却について

◆減価償却とは◆

建物などの固定資産は、使用や時間の経過等に伴って、老朽化や損耗などが進んで、価値が減少していきます。これを減価償却といい、1年間の建物等の価値の減少分を費用として示したものが減価償却費です。

区の公共施設のうち建物と工作物の資産価値は、取得価格の1,433億円に対して637億円となっており、毎年度の減価償却の累計額を差し引くと約半分程度になります。



その他の資産621億円のうち最も多いのが区の貯金にあたる

基金

で、459億円あります。

基金には、経済情勢の変動などによる収入不足等に備えるための基金、将来の建替え等に備えて小中学校といった義務教育施設を整備するための基金、その他に、公共施設等整備基金などがあります。

“ワンポイント”用語解説

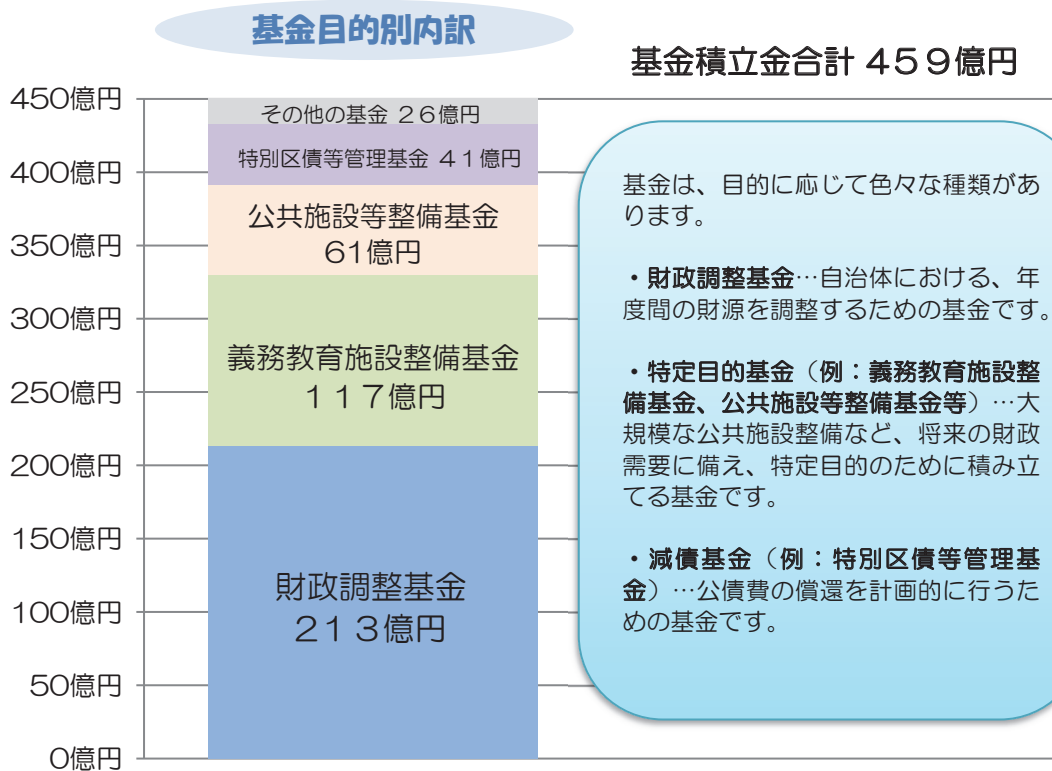
基金について

◆基金（積立金）とは◆

基金とは、自治体が特定の目的のために、条例の定めに基づいて積み立てているお金で、区の貯金にあたるものになります。

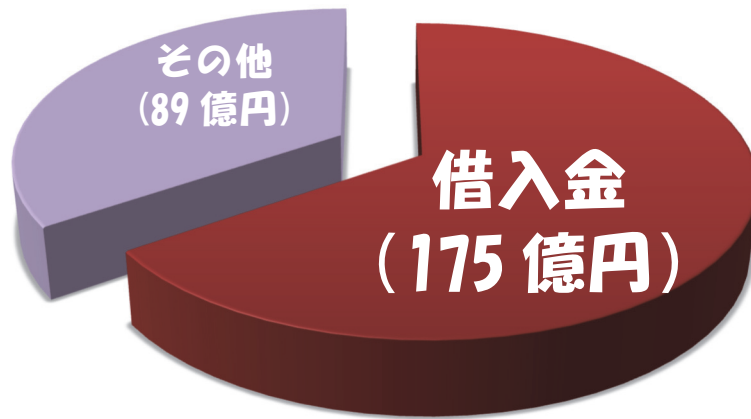
令和4年度末現在の基金の内訳は次のとおりです。

◆基金の内訳◆



次に、負債では、**借入金** が175億円で約7割を占めています。

主な借入の内訳は教育施設整備費に55億円、文化施設建設・大規模改修費に41億円、ふれあい館建設費に28億円等となっています。



その他の負債89億円は、将来の支払いに備えるための人件費関係の各種引当金のほか、建物等を借り上げることにより発生したリース債務などです。



借入金について

◆借入金とは◆

借入金とは区が借り入れているお金で、特別区債といいます。

区がお金を借りる場合は、(*)法律によって公共施設の整備（建替え、大規模修繕等）などで一時的に多額な資金が必要なときなどに限られており、借りたお金は、長いものでは20年以上かけて返済しています。

これは、公共施設が世代を超えて、多くの方々に長い間ご利用いただきますので、将来の方々にも幅広くご負担していただくためです。

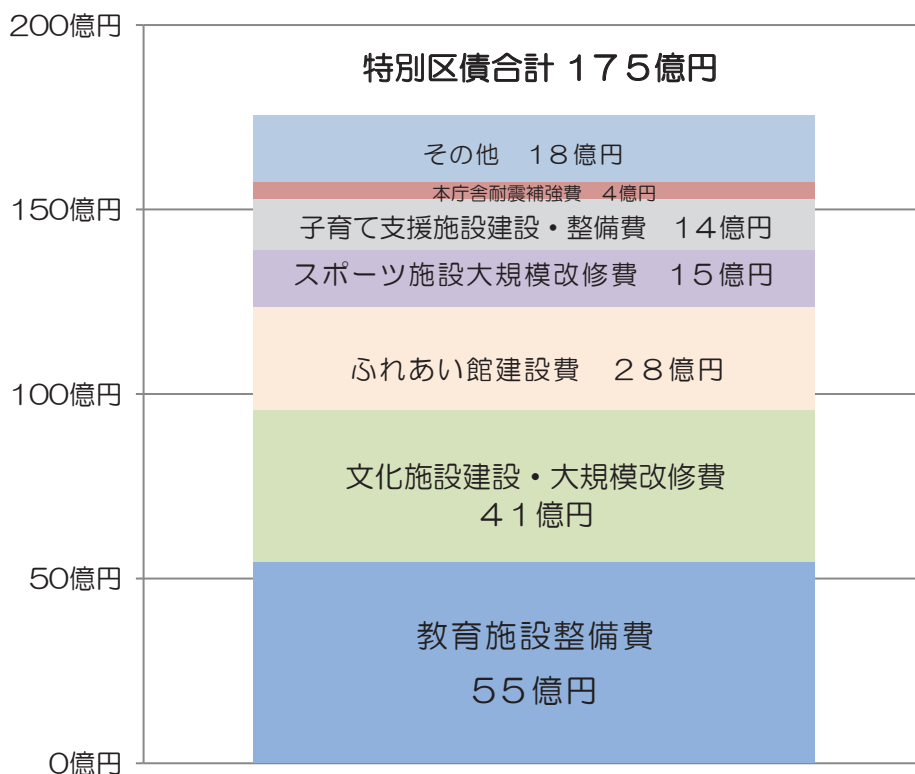
特別区債の内訳は次のとおりです。

令和4年度の特別区債の合計額は175億円となっています。主な借入先は、国、東京都、金融機関等です。

(*)地方財政法第5条

◆特別区債の内訳◆

特別区債内訳



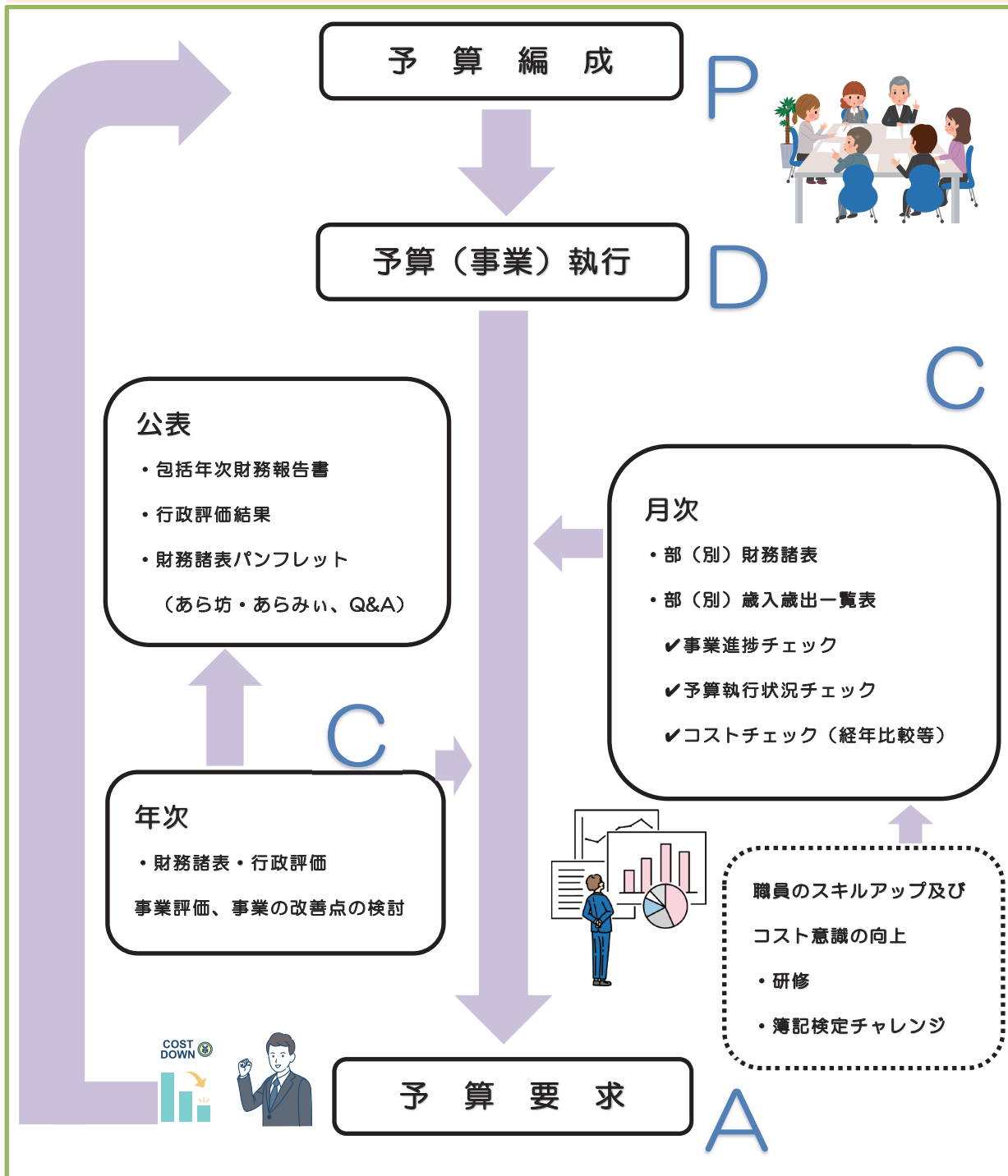


財務諸表はどのように分析し、どのように役立つの？

財務報告書
8・9・12・13・
21・23 頁参照

「新公会計を活用した PDCA サイクルの実施」

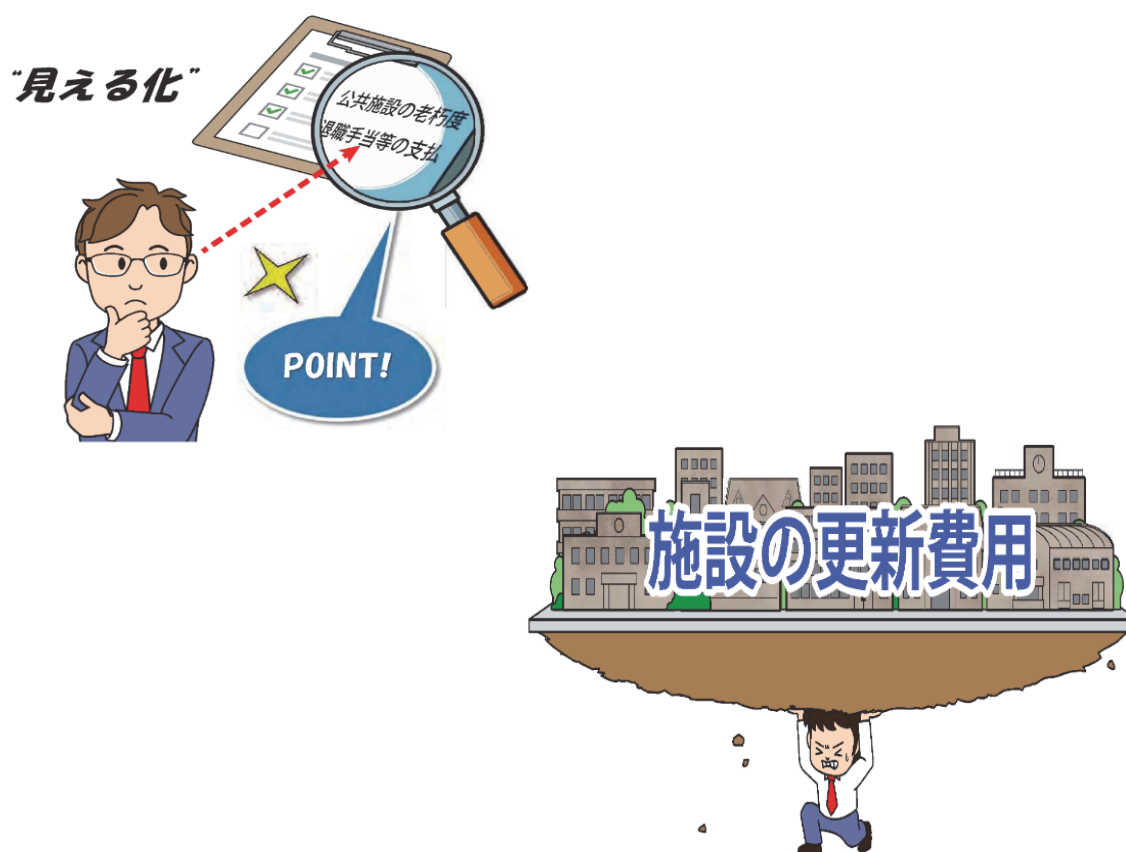
区の財務諸表の分析は、財務諸表や行政評価に加えて、部（局）ごとのストック情報やコスト情報を集計し、事業の進捗管理を行うなど、新公会計を活用した PDCA サイクルにより実施しています。



「将来の財政負担の「見える化」と確実な財政運営」

区では、これまで現金の収支のみに基づいて決算を行ってきましたが、この方法では将来の財政負担を把握することができませんでした。

そこで財務諸表を分析することにより、公共施設等の老朽度を金額に置き換えて、今後の施設整備や更新を行うにあたり、将来、区としてどのくらい財政負担が生じるのかの『見える化』が可能になります。



区では、昭和の高度成長期に集中的に整備した公共施設の効果的な修繕により施設を長寿命化するとともに、計画的な施設整備により費用の平準化を図り、基金の積立てや起債の有効活用によって、施設の更新に取り組んでいきます。

「緊急性の高い新たな行政需要に対応」 ～物価高騰対策～

行政運営にあたっては、計画的な行政運営に加え、緊急性の高い不測の事態への対応も求められます。令和4年度においては、原油価格や電力・ガス・食料品等の価格高騰が続く中、区では、国の交付金等の財源を最大限に活用しながら、以下の対策等に取り組みました。

区民の生活支援及びこども・子育て支援

低所得世帯等への給付事業や区内の介護・障害福祉サービス事業者の負担を軽減し良質なサービスを継続できるよう新たな補助事業を実施しました。【14億円】



子育て世帯への給付事業や区内の子育て施設等の負担を軽減し良質なサービスを継続できるよう新たな補助事業を実施しました。【5億円】



経済対策・事業者支援

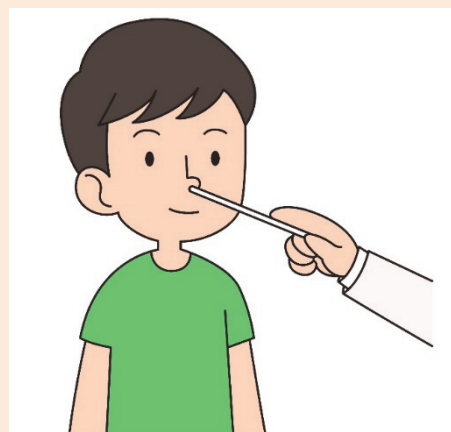
区内中小事業者を支援するため、経済急変対応融資（原油価格・物価高騰等対応）を実施するとともに、過去実施した新型コロナウイルス感染症対応分についても、利子補給を増額しました。【1億円】



「緊急性の高い新たな行政需要に対応」 ～コロナ対策～

区民に対する新型コロナウイルス感染症対策を継続し、ワクチン接種やPCR検査等に加え、区独自の対策を積極的に実施しました。この感染症対策に要した令和4年度の行政費用は、46億4,298万円(*)でした。

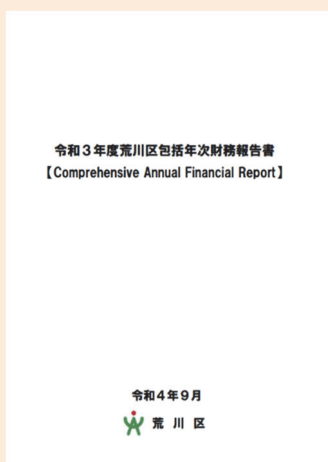
* 令和4年度主要施策の成果説明書より



区では、こうした感染症対策や災害対策といった緊急性の高い行政需要に対し、今後も財務諸表により財務状況をチェックし、財源を確保した上で、区民の安全と安心を守ることを最優先とし、しっかりと対応していきます。

財 務 公 表

・区では、区の財務情報や事業に係るコスト等をまとめた報告書やパンフレットをはじめ、区 HP などでも区民の皆様にお知らせしています。



↑ 区報掲載



↑ 区 HP にアップ

あの取組みはどうなったの？

令和3年度本誌でお知らせした節電や放置自転車の令和4年度の区における取組結果は以下のとおりです。

〔光熱水費〕

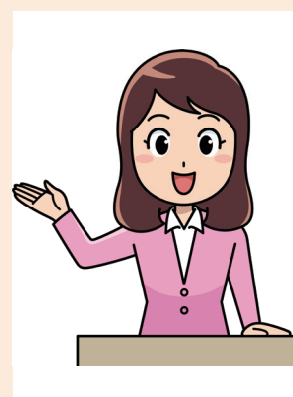
令和3年度	9億2,666万円
令和4年度	11億9,546万円
(増減)	2億6,880万円



○増減

光熱水費の高騰もあり、2億6,880万円の増になっていますが、区ではこまめな節電や照明のLED化などにより、無駄な費用を省く取組みを継続しています。

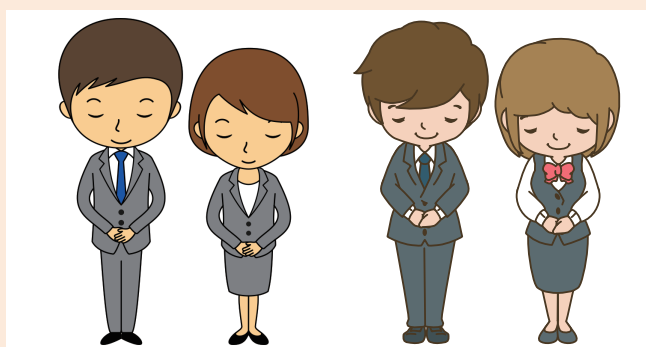
〔放置自転車〕	コスト	放置自転車
令和3年度	1億2,007万円	425台
令和4年度	1億1,294万円	337台
(増減)	△713万円	△88台



○増減

放置自転車撤去事業のコストに加え、放置自転車台数は令和3年度に比べ、1日当たり88台減少しています。

引き続き、区民の皆様のご協力をお願いいたします。





財務諸表を見て財務状況が一目でわかるポイントってあるの？

財務報告書
8・9・20頁
参照

正味財産がポイントです。

正味財産は民間企業でいう自己資本にあたります。

貸借対照表においては、区が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・正味財産）で賄ったかを示すものであり、正味財産は資産の部合計から負債の部合計を差し引くことにより算出されます。

一般的には、資産が増加することは、区の資産が増えたことで財務状況が良くなったように見えますが、例えば、借入金により負債がそれ以上に増えてしまったら、区の自己資本は減り、財務状況は悪化したこととなります。

そのため、財務状況を見るときは、資産や負債の増減だけではなく、区の自己資本である正味財産の状況と併せて、お金を借りすぎていないかなど財務運営上のバランスをチェックすることが大事です。

令和4年度の正味財産の総資産に占める割合は93.8%と高い自己資本比率となっており、健全な財政状況となっています。

令和5年10月発行

登録番号（05）0052

令和4年度決算版 荒川区の財務諸表Q & A

編集・発行 荒川区会計管理部会計管理課
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3
TEL 03-3802-3111（代表） 内線 3221